

分野	専門分野	教育内容	基礎看護学実習
単位（時間）	3 単位（135 時間）	実習時期	1 年次前期～後期
授業科目 （時間）	1 療養見学実習（10 時間） 2 生活援助基礎実習（35 時間） 3 看護過程基礎実習（90 時間）		
<科目設定理由> 対象の生活の場である病室の環境整備ができ、日常生活援助及び看護過程の展開を学ぶ。 <実習目的> 病室の環境整備ができる。 基礎的知識及び技術を踏まえ、対象の状態に応じた日常生活援助を体験する。 受持患者に対し、看護過程を使って看護の展開を体験する。 <実習内容> 1．療養見学実習 対象を取り巻く環境と看護活動の実際を知る。 2．生活援助基礎実習 対象の日常生活援助を通して、よりよい人間関係構築から対象理解に繋げる。 3．看護過程基礎実習 看護過程のプロセスから、対象の状態や反応を捉え、統合された生活者と理解し、看護ケアを実践することで基礎的な看護の実践能力を身につける。			
<受講要件> 1．療養見学実習： ・環境調整技術を受講していること ・ベッドメイキングの看護技術試験に合格していること 2．生活援助基礎実習： ・医療コミュニケーションの講義を受講していること ・身体の清潔、フィジカルアセスメントの看護技術試験に合格していること 3．看護過程基礎実習： ・生活援助基礎実習を履修していること			
<評価方法> ・看護過程基礎実習での評価 ・実習評価表に基づいた臨地実習指導者と学院教員の評価の平均			

分野（領域）	専門分野	教育内容	地域・在宅看護論実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	実習時期	3 年次 前期
授業科目 （時間）	地域支援実習（25 時間） 地域保健実習（25 時間） 在宅看護実習（40 時間）		
<科目設定理由> 地域で暮らす人々のＱＯＬを維持・向上するための援助を学ぶ。 <実習目的> 様々なライフステージや健康レベルにある地域で生活する個人、集団を対象とした看護活動の実際を学ぶ。地域に暮らす人々の健康を保持・増進し、ＱＯＬ を向上させるための保健師の活動や、保健医療福祉の連携のあり方が理解できる。 <各実習目的> １． 地域支援実習（保健所） 地域住民の身体や精神の健康を守るために、広域的・専門的に支える保健所の役割を理解する。 衛生環境を公衆衛生的に支援する保健所の役割を理解し、地域の保健医療をマネジメントする意義に気づき、その中での地域看護活動を考える力を養う。 ２． 地域保健実習（市町村） 地域住民の生活と地域の特性を踏まえ、地域のヘルスニーズに対応するための地域看護活動の実際を理解する。 ３． 在宅看護実習（訪問看護ステーション） 地域で暮らす療養者と家族の生活状況を総合的に捉え、必要なニーズと援助のあり方について学ぶ。また、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割と、療養者と家族を支える多機関および多職種との連携と協働について学ぶ。			
<受講要件> ・ 公衆衛生の講義を受講しておくこと。 ・ 地域・在宅看護総論、地域・在宅療養を支える看護Ⅰを履修しておくこと。 ・ 地域・在宅療養を支える看護Ⅱを受講しておくこと。			
<評価方法> 在宅看護実習で実習評価表に基づいて臨地実習指導者の評価と出席点の合計。			

分野（領域）	専門分野	教育内容	成人看護学実習
単位（時間）	6 単位（270 時間）	実習時期	2・3 年次 前期～後期
授業科目 （時間）	成人看護総論実習（60 時間） 周術期看護実習（60 時間） 急性期看護実習（60 時間） 人生の最終段階看護実習（30 時間） 慢性期看護実習（45 時間） 自己管理看護実習（15 時間） ※学内実習（オリエンテーション・振り返り等）含む		
< 科目設定理由 > 成人期の特徴を捉えた看護活動を体験し、ライフサイクルに共通した健康障害の経過に応じた看護過程の展開を学ぶ。 < 実習目的 > 成人期における健康上の変化によって身体的、心理的、社会的側面に及ぼす影響を理解し、各期で求められる看護の役割を理解する。 < 各実習目的 > 1. 成人看護総論実習 回復期・慢性期にある対象と家族の特徴を理解し、対象の健康レベルに応じた看護を実践する基礎的能力を養う。 2. 周術期看護実習 周術期にある受け持ち患者を理解し、心身の危機的状況から生活機能の回復、社会復帰に至るまでの対象の回復過程を捉え、生活行動拡大のために必要な看護技術を状況に応じて実施する基礎的能力を養う。あわせて、周術期看護における医療チームの連携を学び、看護師としての自己の役割を考える。 3. 急性期看護実習 急性期の患者とその家族の特徴を理解し、生命維持、健康回復、精神的側面への看護を理解する。 4. 人生の最終段階実習 人生の最終段階にある人とその家族を理解し、心身の安楽に向けての援助を学ぶ中で自己の死生観を養う。 5. 慢性期看護実習 〔外来〕 慢性疾患を抱えながら、生活している対象への継続支援について理解する。 〔入退院支援センター〕 地域の人々が治療や療養を安心して過ごせる継続支援について理解できる。			

〔地域医療連携センター〕

入院中の患者・家族が、安心して住み慣れた家や施設等で療養生活が送れるようにするためにどのような支援が行われているのか理解することができる。

〔がん化学療法〕

地域で生活しながらがん化学療法を受ける対象を理解し、QOL を維持するための援助を学ぶ。

〔認定看護師〕

複雑な健康問題を抱える患者や家族に対し、専門知識と実践力をもった認定看護師の関わりの実際を学ぶ。また、認定看護師の役割とチームアプローチの方法を学ぶ。

6. 自己管理看護実習

腎代替療法を受けている患者への自己管理を促進する看護について理解する。

< 受講要件 >

- ・ 基礎看護学実習の単位を取得していること。
- ・ 成人看護学総論を受講していること。

< 評価方法 >

- ・ 成人看護総論実習及び周術期看護実習で評価。
- ・ 実習評価表に基づいた臨地実習指導者と学院教員の評価の合計

分野（領域）	専門分野	教育内容	老年看護学実習
単位（時間）	4 単位（180 時間）	実習時期	1 年次 前期 2～3 年次 前期 ～後期
授業科目 （時間）	老年看護基礎実習（8 時間） 高齢者生活支援実習（52 時間） 老年看護実習（120 時間） ※学内実習（オリエンテーション・振り返り等）含む		
< 科目設定理由 > 高齢社会を迎え老化や様々な疾患による身体機能の低下、障害を持つ高齢者が増えている。そのような中、人生の最終段階にある対象への生きてきた過去を含めた尊厳をもった援助を目指す。 < 実習目的 > 現代社会を生きる高齢者の看護を通し、老いを生きることを支える看護と高齢社会を支える地域社会の役割を担う力を身に付ける。 < 各実習目的 > 1 老年看護基礎実習（1 年次） 自立し主体的に生活している高齢者のくらしを理解し、生活者としての看護の対象理解への第一歩を踏み出すことができる。 2 高齢者生活支援実習（2 年次） 加齢に伴う変化や健康問題を抱えながら生活する高齢者の特徴を知り、その特徴に応じた生活支援の実践を学ぶ。また、高齢者施設の機能と保健・医療・福祉の連携、その看護の役割を学ぶ。 3 老年看護実習（2～3 年次） 老年期にある対象が治療を受けている過程で必要な看護の知識と技術を習得し、自己の老年観を養うことができる。			
< 受講要件 > 老年看護基礎実習：なし 高齢者生活支援実習：老年看護学総論を受講していること。 老年看護実習：老年看護学総論を履修していること。			
< 評価方法 > ・ 2～3 年次の老年看護実習での 2 か所の評価点を平均した点数。 ・ 実習評価表に基づいた臨地実習指導者と学院教員の評価の合計。			

分野（領域）	専門分野	教育内容	小児看護学実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	実習時期	1 年次 後期 2～3 年次
授業科目 （時間）	小児看護基礎実習（32 時間） 小児看護実習（58 時間） ※学内実習（オリエンテーション・振り返り等）含む		
< 科目設定理由 > 多様な生活の場において障害の有無にかかわらず、どのような健康レベルであっても、子どもとその家族に寄り添い、成長発達段階に応じ個別の健康上のニーズに対する看護を実践する。 < 実習目的 > 個々の子どもとその家族及び子どもを取り巻くさまざまな人々を含めて、その特性と相互の影響についての理解を深めたうえで、子どもの健康に関わる専門的知識・技術・専門職業人としての態度を認識でき、子どもとその家族にとって必要な援助を認識し、実践するための基礎的能力を養うことができる。 < 各実習目的 > 1. 小児看護基礎実習（1 年次） 保育園で生活している子どもの観察と関わりを通して、成長発達過程にある健康な子供を理解する。 2. 小児看護実習（2～3 年次） 子どもと家族の健康上のニーズを把握し、小児看護の基本となる知識・技術を用いて看護実践を行い、子どもと家族の最善の利益を保障する看護を学ぶ。			
< 受講要件 > 1. 小児看護基礎実習：小児看護学総論の講義を受講していること。 2. 小児看護実習：小児看護学総論の講義を履修していること。 小児の病態論を受講していること 疾患をもつ小児の看護を受講していること。			
< 評価方法 > ・小児看護実習において実習評価を行う。 ・実習評価表に基づいた臨地実習指導者と学院教員の評価の合計			

分野（領域）	専門分野	教育内容	母性看護学実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	実習時期	2 年次後期～3 年次前期
授業科目 （時間）	母性看護実習（90 時間） ※学内実習（オリエンテーション・振り返り等）含む		
< 科目設定理由 > 生命や性を慈しみ、次世代の誕生を育むとともに、妊娠・分娩・産褥および新生児に対する看護を理解することを目指す。 < 実習目的 > 周産期にある対象とその家族の看護を理解する。生命を慈しむ心を育み、次世代の健全な育成を目指した看護を学ぶ。 < 受講要件 > ・母性看護学総論を受講していること ・周産期病態論を受講していること ・周産期看護を受講していること。 ・新生児への援助技術試験に合格していること。 < 評価方法 > ・実習評価表に基づいた臨地実習指導者と学院教員の評価の合計			

分野	専門分野	教育内容	精神看護学実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	開講時期	3 年次前期
授業科目 （時間）	精神看護実習（90 時間）：精神科病棟		
＜科目設定理由＞ 国は精神保健福祉対策として、精神科病院を中心とした入院治療から地域ケアへと方針を打ち出している。また、現代の複雑な人間関係により、精神疾患は身近な疾患になってきている。そのため、精神障害をもつ対象の特徴を理解し、地域で生活する対象への援助を学ぶことを目指す。			
＜実習目的＞ 対象が持つ精神疾患からくる生きにくさを理解し、社会復帰に向けて対象が望む必要な関わりを考える。また精神疾患を持つ患者との関わりにおいて、治療場面での患者－看護師関係の持ち方、治療的関わりを形成するための対人関係の基礎的技術を体感する。			
＜受講要件＞ ・精神看護学の講義を受講していること。			
＜評価方法＞ ・実習評価表に基づいた臨地実習指導者評価と教員評価の合計。			

分野	専門分野	教育内容	看護の統合と実践実習
単位（時間）	2 単位（90 時間）	実習時期	3 年次 後期
授業科目(時間)	看護の統合と実践実習（90 時間）		
< 科目設定理由 > 各領域で学んだ看護を統合させ、より実践に近い状況で臨床判断を行い、看護の実践力を高める。 < 実習目的 > 看護学実習の最終段階として知識・技術・態度を統合し、チーム医療及び多職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップや看護をマネジメントできる基礎的能力を身につける。 < 実習内容 > 1) 看護管理実習 2) リーダー業務実習 3) シャドウイング実習 4) 複数患者受持実習 5) 夜間実習			
< 受講要件 > ・ 領域別実習を 2/3 以上履修していること。			
< 評価方法 > ・ 実習評価表に基づいた臨地実習指導者評価と学院教員評価の合計 ・ 実習内容 1) ～5) については、それぞれ規定の（2/3 以上）出席を必要とする。 （評価要件）			